



いのち支える自殺対策推進センター ニュースレター 第43号 (2025.05.09)



いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）のニュースレターにご登録いただき、ありがとうございます。本号では、地域における自殺対策で先進的な取り組みを進める東京都江戸川区の齊藤猛区長のインタビューや第7回日本グリーフ&ビリーブメント学会学術大会への登壇報告、JSCP職員インタビュー（松田芳明・地域支援室長）などを掲載しています。

※このメールは、本ニュースレターの配信を希望された方や、当団体の活動を通して、連絡先を頂戴した方に送信しています。今後メールの受信をご希望されない方は、お手数をおかけしますが、[こちら](#)から配信停止手続きをお願いいたします。

〈ニュースレター第43号 トピックス〉

1. 【取材レポート】 齊藤猛・東京都江戸川区長 インタビュー
2. 【登壇報告】 第7回日本グリーフ&ビリーブメント学会学術大会
3. 【JSCP職員インタビュー】 地域連携推進部 地域支援室長：松田芳明
4. 【関連情報】 冊子『自分を傷つけるのはなぜー自傷行為をめぐる10の誤解ー』
5. 【関連情報】 日本自殺総合対策学会「2025年夏季講演会」参加申し込みを受付中

1. 【取材レポート】 齊藤猛・東京都江戸川区長 インタビュー
～『お疲れ様です』の一言が救った、いのち 江戸川区が全庁挙げて自殺対策に取り組む原点～



齊藤猛・江戸川区長（江戸川区役所で）

東京都江戸川区は、自殺対策の領域で先進的な取り組みを行う自治体として知られています。その江戸川区が、ある1年間に自殺で亡くなった区民について、「8割以上が、生前に区の窓口と生活上の相談などの関わりがあ

った」とする調査・分析結果をまとめました。

区はなぜ、こうした調査を実施し、調査結果をあえて公表したのでしょうか？ 齊藤猛区長に話を聞くと、自治体トップとして自殺対策を牽引する思いの背景には、区営駐輪場の女性係員による「お疲れ様です」の一言が、利用する区民のこころを救ったエピソードがありました。

■記事の続きは、[こちら](#)からお読みいただけます

▼記事の全体構成

- 調査の概要／結果
- 江戸川区による自殺対策への取り組みの経緯
- 齊藤猛江戸川区長 インタビュー
調査結果に「叩きのめされるような衝撃」
全庁挙げた取り組み「きっかけは一通の投書」
「自殺対策は、まちづくりの基本」
- 調査後

※JSCPは、江戸川区と自殺対策データ分析等に係る連携協定を締結し、この分析等に協力しました。

2. 【登壇報告】第7回日本グリーフ&ビリーブメント学会学術大会にJSCP職員が登壇

2025年3月16日、大阪市で開催された「第7回日本グリーフ&ビリーブメント学会学術大会」（一般社団法人日本グリーフ&ビリーブメント学会主催）に、JSCP自死遺族等支援室長の菅沼舞が登壇しました。

本学術大会は、グリーフ（grief：悲嘆）やビリーブメント（bereavement：死別）といった体験に対する理解を深めるとともに、死別経験者への援助の手法や支援体制に関する基礎研究から臨床実践までを含む学術的交流の機会を提供し、この領域における学際的で学術的な研究の発展を促進することを目的に毎年開催されています。また、専門的援助の普及と実践、教育への寄与を通じて、広く社会に貢献することを目指しています。当日は、医療・福祉・教育関係者、民間団体関係者、自治体職員など約210人が全国から参加し、講演やシンポジウムなどが行われました。

シンポジウムのテーマの一つが「未成年の子どもとの突然の死別」で、前半は、遺族が置かれがちな状況やそれぞれの現場における支援の工夫について、JSCPの菅沼と坂下裕子氏（遺族会・小さないのち）、西峯育枝氏（大阪市立総合医療センターER・外傷センター）、井上千晴氏（日本臓器移植ネットワーク）の4人が登壇し、発表しました。

菅沼は、「我が国におけるこどもの自殺の現状と自死遺族等支援の枠組みについて」と題して、2025年の小中高生の自殺者数が527人（登壇時は暫定値を使用。3月28日に公表された確定値は529人）と過去最多になったことや、約6割の方が自宅で亡くなるため、学校等から帰宅したこどもや家族が第一発見者になる場合が少なくないといった現状を説明するとともに、自死・自殺に対する誤った認識や偏見によって、悩みや苦しさを打ち明けづらい状況があるだけでなく、こどもに事実を告げることに抵抗がある親も多いことを課題として挙げました。また、自殺の原因・動機として「家庭問題」を挙げることで、遺族等が責任を問われているように感じることもあるためデータ

第7回日本グリーフ&ビリーブメント学会
学術大会

ともに学ぶ、
ともに語る、
ともに生きる

日程 2025年3月15日(土)・16日(日)
※ライブ配信及びオンデマンド配信は行いません

会場 大阪市立総合医療センター 3階「さくらホール」
〒534-0021 大阪府都島区都島本通2-13-22

特別講演	「子どものグリーフ～院内学級・赤鼻先生からのメッセージ～」 副島賢和 (昭和大学大学院保健系生命科学研究科 准教授)
教育講演	「悲嘆理論再考～理論は粗い地図、臨床は未知の現地～」 山本力 (岡山大学 名誉教授)
シンポジウム	「支援者に求められること ～グリーフケアマインド:共に探す・待つ・後押しする～」 (日本グリーフケア協会会長) 宮林幸江
	「未成年の子どもとの突然の死別」 「子どものグリーフへの支援」 「地域でのグリーフケアモデルの構築に向けて」

大 会 長 多田麗竜平 大阪市立総合医療センター
実行委員長 米虫生子 京都産業大学
主催 一般社団法人日本グリーフ&ビリーブメント学会

お申し込みはホームページから
<https://7th-js-gb.com>
詳細はチラシHPを
ご覧ください。
こちらがチラシです。▶

第7回学術大会対策事務局 株式会社 AGU SMH | #fnd7th-js-gb.com

を使用する際には配慮が必要であることや、自死遺族と接する際の心構えとして、自死遺族を被援助者と決めつけるのではなく、目の前で困っている人に真摯に向き合い、その人に歩調を合わせて共に歩いていく姿勢が大切であることを説明しました。

他の登壇者からは、未成年の子どもとの突然の死別を経験した遺族が置かれがちな状況として、死別体験自体が突然の出来事で現実を受け入れがたい心理的状况があることや、警察による事情聴取のインパクトの大きさ、我が子を検死や解剖に出すことへの抵抗感、臓器提供における家族の総意取得の難しさなどが挙げられました。支援における工夫については、医療機関で職員の入れ替わりがあったとしても対応できる体制の整備や、家族の希望に沿った亡くなった子どもとの最後の過ごし方への工夫、効果的な情報提供の仕方など、さまざまな取り組みについても紹介がありました。

後半のパネルディスカッションでは、座長の伊東由康氏（敦賀市立看護大学）、瀬藤乃理子氏（福島県立医科大学）も交えて、「自治体へのつなぎ方」、「支援者への支援」など、会場参加者からの質問に対して、それぞれの立場から意見を交わしました。

3. 【JSCP職員インタビュー】地域連携推進部 地域支援室長：松田芳明 「37年の教職経験を活かし、学校と自殺対策部署との円滑な連携を築く」



<プロフィール>松田芳明（まつだ・よしあき）

1962年、東京都生まれ（両親のルーツは山形県鶴岡市）。教員養成系大学を卒業後、東京都で中学校の数学教員となり、37年勤務。その間、3つの区の教育委員会で指導主事、統括指導主事、指導室長を務めるとともに、学校の管理職としても勤務した。2022年に教育職を退職した後、学校と自殺対策部署との円滑な連携を築こうとJSCPに入職。JSCPの業務の他、地方創生にかかる別の仕事（人口減少により、地方で高校の統廃合が進む中、全国から生徒の募集を行う高校が増えてきている。その生徒募集や学校選択を支援する仕事）にもかかわっている。

——地域支援室長の基本的な仕事の内容について教えてください。

松田）JSCPが地域への支援を実施する際、都道府県と政令指定都市に設置されている[地域自殺対策推進センター](#)との窓口としての役割を担っています。

全国を5つのブロックに分けた上で、各ブロックに「自治体コンシェルジュ」という相談窓口を常設しています。この窓口宛に寄せられたご意見やお問い合わせには、各ブロックに配置されている地域支援室長が対応します。2024年度は、全ブロックで年間2000件程度のお問い合わせがありました。

また、地域連携推進部では、自殺対策の部署に初めて着任する自治体職員の方を対象とした「初任者研修」のほか、事業企画の立案や支援技術の理解に役立ててもらうことを目的とした「生きることの包括的支援のための基礎研修」や、地域支援や実務上の具体的な課題に対応できるようになることを目指す「中・上級者研修」などの各種研修会に加えて、個別の事業にかかわる説明会等も実施しています。研修や説明会の運営は、地域支援室長が分担して講師を務めたり、研修動画を作成したりします。

近年、子どもや若者の自殺者数の増加が深刻な問題となっています。その対応として全国の都道府県及び政令

指定都市に、「[こども・若者の自殺危機対応チーム](#)」を設置する国の事業が2023年度に始まりました。各自治体が事業を開始するにあたり、担当者とのオンライン会議や、実際に現地を訪問しての打ち合わせを行いながら、自治体を支援しています。

■記事の続きは、[こちら](#)からお読みいただけます

▼このほかの質問項目

- ・ 普段は、どのように働いていますか？
- ・ 主に学校連携推進に関わる業務を担当していますね。どんな業務か教えてください。
- ・ 併任している「こども・若者自殺対策室」では、どんな仕事をしていますか？
- ・ 自殺対策への思いを、聞かせてください

4. 【関連情報】冊子『自分を傷つけるのはなぜー自傷行為をめぐる10の誤解ー』の紹介

JSCPでは、科学的根拠（エビデンス）に基づいた政策立案及び社会還元に資する研究を推進するため、自殺対策関連分野の研究者等への公募による委託研究事業である「革新的自殺研究推進プログラム」を実施しています。令和6年（2024年）度委託研究（研究代表者／高橋哲・お茶の水女子大学教授）の成果として制作された、冊子『自分を傷つけるのはなぜー自傷行為をめぐる10の誤解ー』（無料でダウンロードできます）をご紹介します。

リストカットをはじめとする「自傷行為」は、今、社会の問題のひとつとして注目されています。しかし、自傷行為をめぐるのは、いくつかの誤解が根強くあり、この誤解が適切な支援の妨げとなっている場合があります。この冊子は、一般の方だけでなく対人援助の専門家の間にもみられる「自傷行為をめぐる数ある誤解」のうち10個を取り上げ、それらについて文献を示しながら解くことで、「自傷行為を行う当事者への適切な支援につなげること」を目指しています。

例えば、「自傷行為は死ぬために行うの？」という章では、「自傷行為」と「自殺」はどちらも自分を傷つける行為ですが、目的、使用される方法、どのような結果を予期しているかという点などで実は違うものであることがわかります。そのうえで、「自傷行為」が、短期的にはつらい気持ちを紛らわせて生きのびるために行われる一方で、長期的には痛みや恐怖への慣れを介して自殺が実行されるおそれが増すとも考えられており、このため「自傷行為への適切な介入は、自殺の予防につながる」と指摘しています。

主に自傷行為の当事者周囲にいる人、医療・教育関係者や保護者等向けに書かれたものですが、当事者の方が直接手に取っても読みやすいように工夫されています。



研究代表者：高橋 哲（お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系教授）

研究課題名：「非行を有するハイリスクな青少年の自殺・自傷行為の理解・予防・対応策に関する包括的な検討」

成果物：冊子『自分を傷つけるのはなぜー自傷行為をめぐる10の誤解ー』

■詳しくは、[こちら](#)のWebサイトからダウンロード（無料）してご参照ください

5. 【関連情報】日本自殺総合対策学会 2025年夏季講演会の参加申し込みを受付中

日本自殺総合対策学会は、2025年6月10日（火）に「2025年夏季講演会～困難な子どもと触れ合うことで見える子どもの自殺対策～」をオンラインで開催します（共催：情報システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター（予定）、後援：厚生労働省（予定）・JSCP）。

当日は、認定NPO法人キッズドア理事長の渡辺由美子氏に「困難な子どもと触れ合うことで見える子どもの自殺対策」の演題名でお話いただきます。渡辺氏は、長年にわたり、貧困や虐待などの日本のこどもたちが置かれた厳しい環境に目を向け、すべてのこどもが夢や希望を持てる社会を目指して活動を続けています。近年、喫緊の問題となっているこどもの自殺について対策を考える上で、こどもが抱える孤独感や社会的孤立、家族環境の変化などの課題を包括的に捉えることが重要です。こどもたちの心の健康を守り、自殺リスクを未然に防ぐための多面的かつ包括的なアプローチについて学び、こどもの自殺対策の課題解決の糸口を探ります。

進行はJSCP地域支援室長の生水裕美（日本自殺総合対策学会理事）が務め、講演の後には、コメンテーターの岡檀氏（統計数理研究所医療健康データ科学研究センター特任教授、日本自殺総合対策学会理事）が加わり、ディスカッションを行います。

詳細および参加申し込みの方法については、日本自殺総合対策学会の案内ページをご確認ください。学会員のほか、自殺対策に関心のあるすべての方にご参加いただけます（参加費は無料）。申込期限は2025年6月3日（火）です。

■詳細および参加申し込みは[こちら](#)から

自殺対策に取り組む仲間（JSCP の新規職員）を募集しています。

※詳細は[こちら](#)をご覧ください

■YouTubeの「JSCP_広報室」チャンネルで、啓発動画や、研修動画等を順次公開中。ぜひご登録ください。

<https://www.youtube.com/channel/UCNWP2O5zTuul-j8GITeKzHQ>

■Yahoo!ニュースエキスパートで、JSCPとして自殺問題・自殺対策に関する記事を配信しています（JSCP広報官・山寺が執筆）。ぜひご覧ください。

<https://news.yahoo.co.jp/expert/authors/yamaderakaoru>

■X（旧Twitter）でも発信中です。ぜひフォローください。

日本語版X：https://twitter.com/JSCP_press

英語版X：https://twitter.com/JSCP_www

■Facebook

<https://www.facebook.com/JSCP.press>

今後も、JSCPをどうぞよろしくお願ひします。

なお、配信停止をご希望の場合には、以下のページからお手続きをお願いいたします。

<https://jscp.or.jp/newsletter/>

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）

広報室 news@jscp.or.jp